

第 5 学年 社会科学学習指導案

下関市立角倉小学校 教諭 瀧口 稔

求める子供の姿

下関港と自動車工業とのつながりにかかわる問いを解決しようと、自ら繰り返し調べたり、仲間と対話したりする中で、下関港の働きを捉えようとしていく子供。

1 小单元名 暮らしを支える下関港～下関港と自動車工業とのつながり 【全1時間】

2 小单元について

(1) 本校の研究との関連について

本校では、研究主題として『自ら考えをもち、生き生きと表現する子供の育成(3年次)』を掲げている。今年度からは、副主題を、『アクティブ・ラーニングの実践を通して』とし、求める子供の姿を『目的意識をもって学びに立ち向かい、仲間とかかわり合う中で自らの考えを強化・修正しながら、それらを豊かに表現しようとする子供』とし、その育成をめざしている。本校では、この主題解明に向け、①主体性をもたせる学習展開、②協働性を生み出す学習展開、③相手意識を明確にした表現の場の設定の三つの取組を進めているところである。このたび示された次期学習指導要領の審議まとめ(案)の中でも、「主体的な学び・対話的な学びで深い学びを実現する」との文言があるとおり、本单元でも、主体的・対話的な学びに重点を置き実践に取り組むことにした。このことは、本市社会科がめざしている『よりよい未来社会を築く子供を育てる社会科学学習』にもつながるものと考えている。

(2) 教材について

本单元は、下関港においてどのような輸出入貨物を取り扱っているのか、その具体的な社会的事象を調べていく中で、下関港における貿易が我が国の自動車工業の生産等を支えていることに気付き、下関港の役割について考えを深めていく学習である。ただ、子供たちが下関港にかかわる具体的な貿易の様子を目にすることは難しいため、あらかじめ教師が取材し作成した資料の中から、自分の興味関心をもとに調べる内容を選択できるようにした。そうすることで、子供たちがより主体的に下関港の貿易について調べたり、分かったことをもとに下関港の働きについて互いに情報を伝え合おうとする対話的な学びの姿につながったりしていくと考えたからである。なお、本单元は、(公益財団法人)日本海事広報協会が今年度発行した副教材「海運と船と港の役割」を活用した授業の一事例として提案していることから、自動車工業の学習に関連させた発展的な扱いとしての小单元の構成としている。

(3) 指導について

子供たちは、自ら選んだ下関港にかかわるなぞについて、教師の自作資料をもとに集めた様々な情報から、下関港と自動車工業とのつながりについて考えていく。その過程で、自ら調べた社会的事象だけではなく、既習事項や仲間が調べた事実と

も関連付けながら下関港の働きを捉えようとしなければ、下関港を窓口にして我が国全体の工業生産を支える貿易や運輸の働きについて考えることにはつながりにくいと考える。

そこで、指導にあたっては、以下のような支援を具体化し、本単元で求められるねらいの達成を図りたい。

- 導入で、南アフリカ共和国から下関港に輸入された「リン鉱石」の実物と、それをもとにして作られた製品（商品）を提示するとともに、自動車工業とのつながりを紹介することで、子供が強い問題意識をもって主体的に学びに立ち向かうことができるようにする。
- 国内外で生産された自動車や自動車関連部品が下関港を經由して輸出入されていることが明確に認識できる自作資料を複数提示し、自分自身の興味関心に即した内容を自由に選択できるようにする。そうすることで、下関港と自動車工業とのつながりについて、自分の力でも追究することができるようにする。
- 個々の子供が収集した情報を仲間と共有したり、関連付けたりするよう促すことで、下関港と自動車工業とのつながりを仲間との対話の中で見出していくことができるようにする。
- 下関港の貿易にかかわる具体的な数値を提示したり、製品名や商品名を紹介したりすることで、子供たちが下関港をより身近に感じることができるようになるとともに、貿易や運輸などが工業生産を支える大切な働きをしていることに気付くことができるようにする。

3 目標

- 下関港と自動車工業とのつながりについて資料をもとに自ら進んで調べ、それぞれの社会的事象と自動車工業との関連に気付くことで、我が国の工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解できるようにする。
- 下関港の働きについて調べたことを仲間と伝え合うことで、下関港が我が国の貿易や運輸に果たしている役割を適切に表現することができるようにする。

4 評価規準

関心・意欲・態度(関)	思考・判断・表現(思)	技能(技)	知識・理解(知)
○下関港における輸出入貨物や貿易の様子に関心をもち、自ら進んで調べたり仲間と伝え合いながら自動車工業とのつながりについて考えたりしようとしている。	○下関港が、海外と国際フェリーで結ばれていたり国内外で生産された工業製品が輸出入されていたりすることで、どのような役割を果たしているのか具体的に考え表現している。	○下関港の輸出入貨物にかかわる資料を活用しながら必要な情報を集め、下関港と自動車工業とのつながりについて読み取っている。	○下関港が、我が国の自動車工業を支える重要な役割を果たしていることや、貿易や運輸の働きが我が国の工業生産を支えていることを理解している。

5 本時の学習指導（1／1） 平成28年11月17日（木） 5校時 視聴覚教室

(1) 本時のねらい

下関港と自動車工業とのつながりについて資料をもとに自ら進んで調べたり、仲間と伝え合ったりすることで、下関港が貿易や運輸の面から我が国の工業生産を支えていることを理解できるようにする。

(2) 授業の視点

視点1 下関港と自動車工業とのつながりにかかわる社会的事象を教材化して取り上げたことが、主体性をもたせる学習展開につながっているか。

視点2 選択場面を取り入れたことが、対話的な学びを生み出すことにつながっているか。

(3) 展開

	学習活動・子供の意識	教師の支援
課題共有段階	1 下関港の輸出品について関心をもつ。(10分) 学習内容 ・下関港における輸出入貨物への関心(関)	○アフリカから下関港に輸入されたリン鉱石の実物を提示し、彦島の工場で精製した製品が自動車の表面処理に使われていることを紹介することで、下関港と自動車工業とのつながりに目を向けることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 彦島に、こんな大きな貨物船がやってくるのだね。 南アフリカ共和国から下関に何を運んできたのかな。 リン鉱石というのだね。身近な食品にも使われていて驚いたよ。船や鉄道で、全国へ運ばれているのだね。 食品だけではなくて、自動車をじょうぶで美しくするために使われていたなんてびっくりしたよ。 	
下関港は、自動車工業とつながりが深いのか。		
課題解決段階	2 下関港と自動車工業とのつながりについて調べ、下関港の働きについて仲間と話し合う。(25分) 学習内容 ・下関港の役割(思) ・輸出入貨物の読み取り(技)	○国内や国外で生産された自動車や自動車関連部品が、下関港を通して輸出入されていることが分かる自作資料を複数提示し、調べたい内容を自由に選択できるようにすることで、主体的に学んでいく意欲を沸き立たせるようにする。 ○収集した情報を共有したり関連付けたりするよう促すことで、下関港と自動車工業とのつながりを仲間との対話を通して理解できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ぼくは、人工島のなぞについて調べてみたいな。 私は、関釜フェリーで韓国へ行ったことがあるけれど、船の中にこんなに広い貨物を積める場所があるとは思わなかったよ。しかも、日本で作られた車が韓国へ輸出されたり、韓国の工場で作られた自動車部品が日本へ輸入されたりすることを初めて知って驚いたよ。 長府ふ頭から、世界一大きなタイヤがアメリカやオーストラリアへ輸出されていることが分かったよ。 人工島から、南アフリカ共和国へたくさんの中古自動車が輸出されているのだから。 下関港は、自動車だけではなく、自動車部品やタイヤなども輸出入しているのだね。 	
表現段階	3 本時の学びを振り返る。(10分) 学習内容 ・下関港における貿易や運輸の働き(知)	○学んだ内容を、「下関港のここがすごい」という記事で、下関港と自動車工業とのつながりを端的に表現するよう促すことで、貿易や運輸の働きが我が国の工業生産を支えていることを理解できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> アフリカから下関港に輸入されたリン鉱石が、食品や自動車を作るために役立っているとは驚きだったよ。 下関港は、韓国や中国とフェリーでつながっているよ。 下関港は、日本一大きなタイヤを輸出したり、アフリカへ中古自動車を輸出したりしているのだね。自動車工業ととてもつながりが深いことがよく分かったよ。 	

日 時 平成28年11月17日(木)

場 所 視聴覚教室

指導者 4年2組担任 瀧口 稔

○ 授業の視点

視点1 下関港と自動車工業とのつながりにかかわる社会的事象を教材化して取り上げたことが、主体性をもたせる学習展開につながっているか。

視点2 選択場面を取り入れたことが、対話的な学びを生み出すことにつながっているか。

○ 授業を振り返って 記入者 ()

	成 果	課 題・改善案
主体性		
対話的 な学び		
その他		